

184 相撲-伝統と日仏親善（2023 年 8 月 10 日）

パリにあるグレヴァン美術館には、歴史上の人物、政治家、映画スターや有名なスポーツ選手など、著名な人物の蠟（ろう）人形が展示されています。それぞれの人物の体格や顔の表情などの特徴を捉えて作られた蠟人形で、作り物であると分かっていても、本物の人物が目の前に現れたかのような錯覚に陥ります。

スポーツ選手の蠟人形が展示されているコーナーで、力士の蠟人形を見つけました（写真右）。展示されている蠟人形の多くは個人名が特定されていますが、この蠟人形には個人名はなく、日本の格闘技である相撲と紹介されています。



相撲は、日本の伝統的なスポーツです。相撲の起源と考えられる力くらべは、8 世紀に編纂された書物に登場します。相撲は、農作物の収穫を占う神事として行われるとともに、宮廷行事としても行われるようになりました。

相撲を職業とする力士が現れ、定期的に相撲の興行が行われるようになったのは、江戸時代（1603-1868）になってからです。相撲は、庶民の娯楽として人気を集めました。浮世絵では相撲絵というジャンルが生まれ、人気力士の浮世絵が作られました（写真右）。実は、エドゥアール・マネが描いたエミール・ゾラの肖像画の背景に描かれている 3 枚の絵の一つは、相撲絵です（写真上の黄色い囲み部分。）。現在の大相撲は、年 6 回の本場所（一場所 15 日ずつ）と地方巡業が行われています。



相撲は歴史あるスポーツであることから、現在でも相撲の世界では数々の伝統を守っています。例えば、力士になるには相撲部屋に入門し、親方の下で兄弟弟子とともに集団生活を行います。体を大きくするために、たくさんの食事をと

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ります。相撲部屋で日常的に食されている鍋料理として、野菜と魚又は肉がたっぷり入った栄養満点の「ちゃんこ鍋」が有名です。

力士になると髪の毛を伸ばし、一定のランク以上の力士は、大銀杏（おおいちよう）と呼ばれる独特のヘアースタイルをします（上の蠟人形の写真参照）。結い上げた髪の毛の先が銀杏の葉の形に似ていることから、その名が付けました。相撲は、土俵と呼ばれる専用の競技場で行われます（写真右）。土俵は、土を盛り、藁を編んで円筒状にした俵で囲んだものです。相撲は、二人の力士で争われ、土俵外の土に先に体のどこかが触れた方の力士が負けになります。



ジャック・シラク元大統領（1932-2019）は、日本文化に高い関心を寄せていたことで知られていましたが、特に大相撲を愛していました。訪日した際にはしばしば大相撲を観戦し、愛犬には Sumo と名付けていました。シラク大統領（当時）は、2000 年にフランス共和国大統領杯（ジャック・シラク杯）を創設し、大統領杯が優勝力士に贈呈されるようになりました。大統領の交代によって一時中断されましたが、2011 年 3 月に東日本大震災が発生したことを受けて、同

年 7 月から日仏友好杯が贈られるようになりました。この副賞として、世界的なパティシエであるピエール・エルメのマカロンが選ばれました。千秋楽の表彰式では、直径 40 センチもある巨大なマカロンが贈呈されます。もちろん、それは本物ではありません。実際には、優勝力士には金箔コーティングされた特別仕様のマカロンが贈られます。



相撲は、日仏友好親善にも一役買っています。優勝した力士は、優勝の喜びに酔いしれながら、フランスの美味しいマカロンを味わっていることでしょう！